

## 自主調査研究報告 [継続報告]

離島における地方港湾の利活用に関する研究 (継1B-2-③)	大分類	継1B
	中分類	継1B-2

## 1. 目的

北海道に23ある地方港湾は、地域の物流・産業の拠点、住民の生活拠点として重要な役割を果たしている。近年のインバウンドやクルーズ船の寄港増、農水産物輸出などのニーズに加えて、地方港湾所在地域のみならずオアシス指定など、地方港湾の利活用とそれによる地域活性化がより重要となっている。特に有人国境離島に存在する地方港湾においては、港湾利活用による地域活性化、その根幹となる離島フェリーの維持が、離島の定住促進に直結する喫緊の課題となっている。

こうした、有人国境離島地域住民の安全・安心、定住促進といった喫緊の課題に応えるには、離島及び離島フェリーの発着点となる地方港湾の機能の現状と新たな利活用の要請を踏まえ、地方港湾整備構想の作成の方向性を検討するとともに、現実の予算状況と整備スケジュールも勘案して、予算規模に応じた港湾機能の強化手法を検討することが必要である。

以上を踏まえ、本研究では、北海道の有人離島地方港湾を中心として、港湾の利活用と地域活性化に関する課題と新たなニーズを抽出するとともに、早期に効果発現が可能となるような長期整備構想の作成手法や整備における課題を整理し、地方港湾の整備のあり方を提案することを目的とする。

## 2. 実施内容

令和元年度は、離島地方港湾の利活用・地域活性化についての課題、新たなニーズについての行政関係者を中心にヒアリングを実施した。

そのうえで、研究の検討課題を「離島地方港湾を核とした交流人口の拡大」とし、モデル港を離島フェリーの発着点にあたる奥尻港、江差港とした。そして、対象地域の交流人口拡大の前提条件を把握するための文献及び統計データ等を収集整理した。次に、奥尻町、江差町について、交流人口と現在の取り組みの現状、課題について現地調査とヒアリングを実施した。

## 3. 主要な結果

①交流人口検討の前提条件として、北海道新幹線、高規格道路延伸の影響に関する文献、データを収集した。また、両町の交流人口の現状に関するデータの収集に加え、奥尻町の大型ホテル閉館、瀬棚～奥尻航路休止の影響、江差町「北の江の島構想」の動向、等についてもデータを収集した。

②奥尻町については、現時点での、宿泊施設及び交通機関の課題、閑散期の交流拡大に向けた取り組みの課題・検討事項を抽出した。また、奥尻町は、今後の交流拡大方策の中核としてみならずオアシス登録も検討しており、みならずオアシスに対応した中核施設の再検討も必要となっている。江差町についても、奥尻町との連携という観点からの交流人口拡大の課題を抽出した。

## 今後の対応

離島フェリーの減便や大型宿泊施設休館に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、奥尻町等離島の交流人口拡大の方策も転換期を迎えており、次年度の研究において、社会条件を踏まえた交流人口拡大施策の基礎となる検討を行う予定である。